

人と防災未来センター 令和3年度事業評価

中期計画の各年度の達成状況を事業単位ごとに評定
 ○評価基準（4段階評価）
 ・S：大変評価できる
 ・A：評価できる
 ・B：あまり評価できない
 ・F：評価できない

評価事業単位	評定	委員コメント
展 示	A	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、来館者のための館内の感染対策を行うとともに、イベント・企画展の対面・オンライン併用等の工夫により参加者と視聴者を回復させたことを評価する。 ・東館3階サイエンスフィールドは、体験型として様々な工夫がなされ好評であり、夏休み防災未来学校での活用も有効である。こうした子ども世代が家族と一緒に防災を自分事として考える取組はとても重要である。 <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で来館者数が伸びなかったことはやむを得ないが、今後は着実に回復させていく必要がある。 ・西館と東館の目指す(見せる)ところを明確にし、2館体制のマネジメントを考える必要がある。 ・来館者の事前・事後学習の仕組み、市民参画型企画展や次世代若者の場の提供、世界災害映像やゲリラ豪雨災害・気候変動に関する展示、スタンプラリー等被災地のフィールドを活かした取組等に期待する。 ・展示でもICTの活用が進むが、語り部さんのようなアナログ的なものとのバランスも考える必要がある。 ・全国の災害ミュージアムの連携のハブになることを期待する。
資料収集・保存	A	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膨大な震災資料は大変貴重であり、その継続的な保存やデータベース化の努力は大いに評価する。 ・来館者の関心を引き寄せる様々な企画展は資料利活用に有意義であり、またコロナ禍でのオンラインレファレンスの試行の工夫を評価する。 ・国立国会図書館「のじぎく」との連携は素晴らしく、震災資料の全国規模での活用が期待できる。 <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一層の資料活用のため、キーワードの多様化や災害時にいち早く資料を提供できるようなデータベース検索機能の高度化、オーラルヒストリーに合わせた記録映像活用等の記憶を蘇らせる工夫も効果的である。 ・資料収集件数は減少傾向だが、高齢が進む被災者からの資料収集が望まれる。 ・収集保存の苦労話や裏話により、その重要性を伝える情報発信を期待する。

評価事業単位	評定	委員コメント
実践的な防災研究と若手防災専門家の育成／災害対応の現地支援・現地調査	S	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中核的研究と重点研究領域など各プロジェクトの組織的研究や実践的防災研究の有意義な成果が得られるとともに、防災施策の立案や社会実装につながっていることも評価する。 ・実践を経験した多くの防災研究者を育成し、大学や研究機関等へ輩出している機関として唯一無二の存在であり、我が国の防災にとって重要な成果である。 ・災害時の自治体支援や現地調査を踏まえた研究成果が、災害対策専門職員研修及び自治体災害対応ガイドライン等に生かされたことやコロナ禍での被災自治体向けワンストップ窓口の設置を高く評価する。 <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より広範な災害に対応できる人材育成、今後の災害対応におけるブレークスルーとなる知見の公開、気候変動予測・適応等の新たな研究も期待する。 ・被災自治体支援活動の評価のフィードバックによる支援内容の向上や研究成果の自治体・地域防災へのさらなる還元を期待する。
災害対策専門職員の育成	S	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・段階的なスキルアップ、フォローアップ、首長のトップフォーラム等で構成された研修構成は有意義であり、さらに多くの受講生によるネットワーク化にも成功している。 ・コロナ禍の中、オンライン研修の方法をうまく工夫しながら実施した結果、これまでにない遠隔地からの参加など受講者数が増加したことを評価する。 <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後オンライン研修の利便性を活かすことでより多くの受講者の獲得や、国等との研修ノウハウの共有による相乗効果の発揮を期待する。 ・オンライン化による受講パターンの変化を踏まえた検討が必要である。 ・すべて人防ではできないが、市町村や都道府県による防災研修の役割分担の整理、民間企業など他に漏れがないかなどを議論する場が必要ではないか。
交流ネットワーク	A	<p>[評価]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修受講生や元研究員との広範な人的ネットワークのもと様々な情報共有が図られ、さらにHAT神戸の地の利を生かしたDRA各機関や住民との連携が根付いてきていることを評価する。 ・防災に取り組む学生等の交流や語り継ぎ研究報告会等は、次に伝承する貴重な取組として評価する。 <p>[提案]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気候変動、SDGS、感染症等、グローバルな視点から災害へのアプローチについて、海外の研究機関、自然災害博物館等との連携も含めて、交流や連携のあり方を検討しておく必要がある。 ・研修受講生のネットワークを有機的に継続するため、各所属自治体と災害時の実務的な業務等を事前に書面化することが効果的である。 ・次世代を担う若者層による防災・減災の主体的な取組を促し、掘り起こし、一層広めていく取組を期待する。